

ヤシャゲンゴロウ (*Acilius kishii* Nakane)

- ゲンゴロウ科メススジゲンゴロウ属の体長15~16mmのゲンゴロウ類
- 世界で唯一、福井県南越前町の夜叉ヶ池のみに生息する日本固有種
- 中部地方以北に生息するメススジゲンゴロウの亜種とされていたが、1984年に独立の新種として登録



●メススジゲンゴロウ
★ヤシャゲンゴロウ

図 日本におけるメススジゲンゴロウ属2種の分布

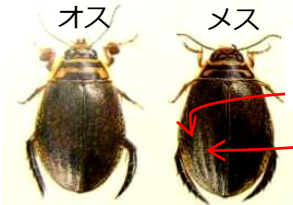
Bergsten & Miller (2006)より図を引用して改変



夜叉ヶ池

- 南越前町の岐阜県との県境付近、標高1,099mに位置する小さな池（面積0.36ha、最大水深7.7m）
- 周囲から流入する河川はなく、直接池に降り注ぐ雨や雪と周囲のブナ林の土壌からの地下水で維持
- 魚類は生息しないが、イモリやモリアオガエルのオタマジャクシが多い

メススジゲンゴロウ



メスの背中に溝状のスジがある

ヤシャゲンゴロウ



メスの背中にスジがない

森・北山『図説 日本のゲンゴロウ』(2002年)より画像引用

- 成虫には翅があるが、飛べないためほかの池には移動できない
- 環境省が国内希少野生動植物種に指定⇒平成17年保護増殖計画が策定され、生息域外飼育開始（福井県自然保護センター、越前松島水族館、宇津尾飼育場、石川県ふれあい昆虫館）

《夜叉ヶ池におけるヤシャゲンゴロウの生活》

- 夏に羽化した成虫は池の中で越冬し、雪が解けた6~7月頃に、池の岸近くの倒木に生えたコケなどに産卵
- 卵は10日ほどで孵化し、幼虫は主にミジンコ類を食べて育つ
- 2度の脱皮を行い、約3週間で成長を終えた幼虫は、池の岸近くの土の中で蛹になる（蛹化）
- 8月頃、羽化した新成虫は池へ戻り、水面に落ちたトンボやチョウなどの昆虫類のほか、両生類の死体を食べて生活

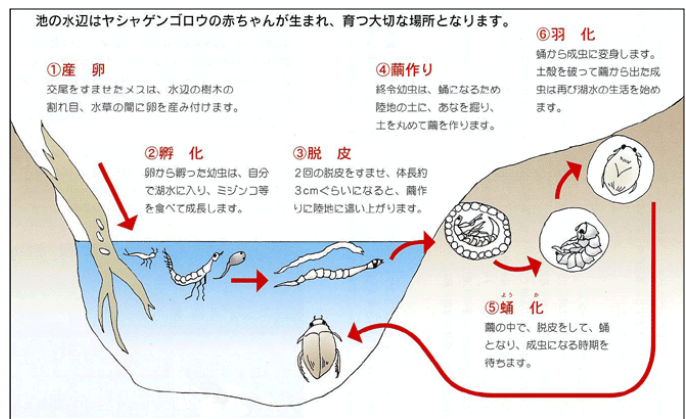


図 ヤシャゲンゴロウの生活史
近畿中国森林管理局HPより引用

